

2012年度 中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	国際会計研究科	身分	准教授
氏名	石島 博		
NAME	Hiroshi Ishijima		

1. 研究課題

(和文) 動的な相互依存リスクを考慮した最適ポートフォリオ選択

(英文) Optimal portfolio selection subject to cross correlation risk dynamics

2. 研究期間

2012年4月1日～2013年3月31日

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word 程度）

(和文)

【研究背景・目的】2008年に発生した金融危機とその後の景気の低迷は、米国を震源地とする不動産、およびその価格に高度に関連付けられた金融派生商品のバブルと崩壊を契機としていたと言えよう。このように、近年の金融市場においては、株や債券等の伝統的金融資産と、不動産を含めたオルタナティブ投資は相互に依存関係を強めている。そこで、本研究では、資産運用ポートフォリオにおいて、安定的なパフォーマンスを目指すべく、新たに不動産を追加した場合に、考慮しなければならないリスクを評価するフレームワークを構築し、その有効性を示した。

【研究計画・内容】従来の株や債券といった伝統的金融資産に、不動産などのオルタナティブ投資を追加してポートフォリオを構築する場合には、これらの資産間の相互依存リスクを考慮することは極めて重要である。本研究では、伝統的な金融資産に、不動産というオルタナティブ投資を加えたポートフォリオにおけるリスクを、その資産価格形成の分析とともに評価する手法を確立し、その有効性を実証した。この実証研究は、中央大学に備えられている、統計ソフトウェア(SAS)やオンラインデータベースを十分に利活用して行った点に特徴を持っている。

【研究成果】本学「研究者情報データベース」に記載した学会での研究発表や論文掲載を行った(2012年度4月～2013年3月分のもの)。また、所属研究科における2012年度の講義「財務リスク管理」や「オルタナティブ投資」にて、本研究成果を積極的に取り入れた授業を行った。

(英文)

Real estate and financial asset markets are now merging and becoming significant driving forces of the global economy, as exemplified by the 2008 financial crisis. With this background, I developed a unified model for pricing real estate and financial assets to conduct an empirical analysis in the Japanese markets.

4. おもな発表論文等 (予定を含む)

【学術論文】 (著者名、論文題目、誌名、査読の有無、巻号、頁、発行年月)
・石島博, 前田章, “宅地価格時系列データの推計と投資収益性の計量分析,” 査読あり 経済政策ジャーナル(2012年11月19日, 採択済).
・石島博, “不動産ファイナンスの最近の潮流とパーソナルファイナンスへの応用,” 査読なし 証券アナリストジャーナル, 51(1), pp.18-27, 2013年1月.
【学会発表】 (発表者名、発表題目、学会名、開催地、開催年月)
・石島博, 前田章, “宅地価格時系列データの推計と投資収益性の計量分析,” 日本経済政策学会第69回(2012年度)全国大会, 椋山女学園大学, 2012年5月27日.
・石島博, 前田章, 谷山智彦, 不動産ファンダメンタル・ベータによる不動産投資リスクの計測 “ 日本OR学会 2012年秋季研究発表会, ウィンクあいち, 2012年9月12日.
【図 書】 (著者名、出版社名、書名、刊行年)
特になし
【その他】 (知的財産権、ニュースリリース等)
特になし